

令和6年度 大田区立道塚小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和7年3月1日

○学級数 18 学級 児童数 515名(令和6年10月現在)
○目指す学校像は「あいさついっぱい、うんどう大好き、できた分かった時のえがお、おもいやりいっぱい」の「**あいえお**の学校」づくり(全教職員と全児童で取り組む)
○令和4年度からは、大田区教育委員会独自教科新設に向けた研究実践校として「**おたの未来づくり**」に向けてのカリキュラム開発に取り組んで、今年度は令和7年度全校実施となる為、エリア協議会で区内パイロット校として実践を積み重ねている。
○区内に先駆けコミュニティスクールとして、学校運営協議会を中心として、地域と協働した学校教育を実践する。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善案	評価人数	学校関係者記入欄 コメント
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未成 来社来 社会を 創造的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2	☆児童アンケート 友達と協働的学習をすること(グループ学習などで学びあうこと)は楽しいですか。」の質問項目に対する回答	4	＜これまでの取組＞ ①様々な学習で自らの気づきや疑問を元に課題を設定し、課題解決のための情報を集め、整理・分析・まとめ表現する活動に取り組んできた。 ②どの教科でも振り返りの時間を大切にし、ワークシート等で実践してきた。また、グループで話し合い、考えを共有したり、比較したりして深める活動は適宜行ってきた。 ③授業の中でデジタル教科書やオクリングプラス等を積極的に活用し、情報活用能力の育成を図ってきた。	A11	道塚小の子ども達は元気で意欲的なところをよく見る。授業でのディスカッションなどのグループ学習はとても身につくと思います。授業の様子は学校公開を見る限りですが、GD後に、全体で協議という授業が進められていて、児童の主体的な学習、深い学びに繋がる授業をしていると思う。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	4:肯定的回答90%以上 3:肯定的回答90%未満80%以上 2:肯定的回答80%未満70%以上 1:肯定的回答70%未満		B2	「～を育成する」という目標に対して「は楽しいですか」という児童への質問では、この目標における成果を図ることは難しいように感じるが、これまでの取り組みを児童たちが楽しみながら行うことで積極的に学習に取り組むことに繋がり、取り組みの目的が果たされやすくなっていることが考えられる。オクリングプラスへの移行自体が課題だったかと思いましたが、積極的に使っているとのこと、さすが先生方と子どもたちです。	
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2			C1	一人一人の振り返りをチェックするのは大義でしょうが、有効なワークシートを活用してこれからも大事にお願い致します。先生方が子どもが自分で考えられるよう授業の進め方を工夫したり、授業の終わりに振り返りを行うことにより、自分の頭を整理したり、考えを発展させる手助けができています。とても重要な目標に対し、学校側で具体的に検討し、実行されていると感じました。	
							D0		
お世個 お界別 たと目 をづ標 担な2 うが人 材国際 育都 成市し ます	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話を機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2	☆保護者アンケート 「お子さんが自分にはよいところがあると感じている。」の質問項目に対する回答	3	＜これまでの取組＞ ①各担任は、外国語教育指導員との打ち合わせを適宜行い授業の展開や役割分担等を事前に行ってから授業に臨んでいる。そのため、児童の実態に合った授業を展開することができている。 ②総合的な学習の時間や社会科、5・6年生においてはおおたの未来づくり等の学習では、我が国や大田区の伝統や文化について調査・体験を通して理解を深めてきた。また、6年生においては、留学生との交流も行ってきた。 ③SDGsの一環として、給食の地産地消や食品ロス、配付物のペーパーレス等に取り組んでいる。	A9	おおたの未来づくりやカラム新蒲田と3年生の協働など、地域・おおたとの結びつきを子ども達が担って活動している。英語カフェ案とてもいいと思います。外国の方に慣れない子とでもたくさん触れ合ってもらい、以前にも英語カフェがあったと思うが、今はないのでしょうか。
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	4:肯定的回答90%以上 3:肯定的回答90%未満80%以上 2:肯定的回答80%未満70%以上 1:肯定的回答70%未満		B5	多くの児童が利用しやすいような英語カフェを実践して欲しいと思う。国際的に推進されているSDGsに対する活動や英語教育が校内の掲示板や資料配布を通じて保護者にも伝わっていると思うので、継続していくべき。ALTと担任の棲み分けに関しては議論されるべきだと思う。大田区の伝統や文化、学校の催しについて英語で発信する取り組みがほしい。ポスター1枚からでも十分。国際社会に出て行く子どもたちのために、語学プラスSDG'Sの考え方を身につけるのが必要ですね。交流会はアナログ、心が感じられて良いですね。外部の近隣高校との連携など校内にとどまらず、積極的に機会を作ることにも努めている。	
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2			C0		
							D0		
た一個 め人別 の目標 礎り3 とが個 な性力 とを能 育力成 をを発 し揮する	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	☆児童アンケート 「授業中、勉強がよく分かります。」の質問項目に対する回答	4	＜これまでの取組＞ ①道徳教育推進教師が講師となり特別の教科「道徳」の指導と評価の在り方や指導のポイントについて研修会を開いたり、実際に授業を公開したりして、積極的に教員の指導力向上に務めた。 ②算数科では、習熟度別の授業を通して個に応じた学習を展開している。 ③体育主任や体育研究員が積極的に授業公開し、場の工夫や授業展開の工夫等について自らが研修で得た知識や技能を広めており、学んだ教師がすぐに自分のクラスで実践をすることができた。 ④保幼小の連携協議会や小中一貫教育の会等を通して、情報交換をしたり、授業を見合ったりして円滑な接続を目指してきた。	A13	習熟度別や教科担任制など子ども達にあった勉強ができるような体制をとっている。また、幼保小中連携を進めている学校である。中学校との情報交換はとても大事です。その学年にあった教育方針や指導方針があるとと思います。個別の情報ももらいたいです。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2	4:肯定的回答90%以上 3:肯定的回答80%未満70%以上 1:肯定的回答70%未満		B0	こと道徳に関しては、学校だけで身につくものではないと思うので、地域や家庭との連携を含めた取り組みが大切ではないだろうか。勉強がよくわかると答えた児童が93%というのはまさに先生方の努力の結果だと思う。「勉強がよくわかる」状態になり、それを児童が自覚するにはいくつかのフェーズ(例:授業に問題なく出席する、内容を理解できる、問題が解けるなど)を乗り越えなければならぬと思う。学校教育の中の、学問的な教育の意義が実質的に果たされていると言えるのではないかと。児童の回答が90%以上だったことがわかり学校の取り組みは評価出来ると思います。それと同時に基礎学力をつけるための家庭学習、例えば毎日の読書(カード記入)など家庭への応援要請は従来通りに出来ているのでしょうか？	
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3			C0	学校公開などの機会に算数の習熟度別授業を数度視察させていただいているが、教師はそのレベルに的を絞った教え方ができており、子どもたちも積極的に授業に取り組んでいる様子が見られている。	
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2			D1		
学個校 校別力 目・標 ・標 4師 力を上 向させ ます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	☆保護者アンケート 「学校は子供に分かりやすい授業をしている。」の質問項目に対する回答	4	＜これまでの取組＞ ①ICT機器を活用し、自分の考えを表現するスキルを多面化している。また、ICTを活用することでより簡単に自分以外の考え方を共有することができた。 ②高学年では教科担任制で授業を行っている。また、身近な公共施設や工場等との連携を図って授業を展開してきた。 ③高学年の教科担任制や時間講師の活用、ペーパーレス等を通して特に学級担任の事務的な業務や授業準備の負担を軽減し、児童に向き合う時間を確保してきた。 ④校内OJTを計画的に行っている。また、教科主任を中心に区教研等で得た知識や技能、実践例を共有するために積極的に授業公開してきた。	A9	今年度多くの先生が入り替わり、若くなったが、先生方みなで協力して向上を図っており、子ども達が授業を楽しんでうけている様子を見ている。教科担任制の導入で先生方の負担も減るといってすね。教師力の向上が、児童の学びに向かう力を高めることや良い学習環境になることに繋がると期待します。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特徴を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	4:肯定的回答90%以上 3:肯定的回答90%未満80%以上 2:肯定的回答80%未満70%以上 1:肯定的回答70%未満		B5	OJTはもちろん重要であるが、それ以上に、各先生方がその時点で持っている力を発揮すること(新人の場合は大学までの学習・経験)ができるように環境を整えることも同じくらい重要ではないかと感じる。ICTの活用は重要だが、それに頼り過ぎる危険性が認識されていない印象を受ける。デジタルとアナログのバランスを小学校教育から能動的に考える試みがほしい。まだまだ全般的に教えないといけない小学校ではOJTを頑張っていて難しいです。出来たら高学年だけでなく教科担任制を先生の都合の良いように増やしていければ良いと思います。学校、そして先生方も校内にとどまらず、地域や区内企業との連携などにより学力も上がっていると考える。	
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	2			C0		
		④教員自身が校内OJTや研修を通し、自らの教師力を向上させようとする取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3			D0		

